

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	三重県
推進地域名 (再委託先)	伊賀市 鈴鹿市

1 事業推進の体制

実践中心校	〔伊賀市〕 伊賀市立島ヶ原中学校、伊賀市立島ヶ原小学校 〔鈴鹿市〕 鈴鹿市立加佐登小学校、鈴鹿市立愛宕小学校、鈴鹿市立白子小学校、 鈴鹿市立長太小学校、鈴鹿市立稲生小学校、鈴鹿市立桜島小学校、 鈴鹿市立神戸小学校、鈴鹿市立玉垣小学校
協力校	〔鈴鹿市〕 市内全小中学校
関係機関	〔伊賀市〕 NPO法人伊賀おかみさんの会、J Aいがほくぶ 〔鈴鹿市〕 鈴鹿市学校給食センター等

2 各都道府県教育委員会の取組

(1) 食育の方針 (取組内容)

<ul style="list-style-type: none"> ・県内すべての学校で「食に関する指導の全体計画」を作成し、学校教育活動全体で実質的な食育の推進を図る。 ・学校における食育の取組を県内全体で推進するための方策を講ずる。 (実践集、講習会、連絡協議会、朝食メニューコンクール等)
--

(2) 実践推進地域への指導・支援内容等

<p>学校における食育推進連絡協議会において、実践推進地域からの報告を行った。 市町等教育委員会事務局の出席者との質疑応答の場を設け、内容充実への機会とした。</p>

3 具体的な取組等について

テーマ1	学校における食育の指導体制等の充実及び取組の啓発
評価指標	食に関する指導の全体計画作成 (平成24年度⇒平成25年度) 小学校 (77.6%⇒82.5%) 中学校 (71.3%⇒85.4%) 特別支援学校 (56.3%⇒75.0%) みえの地物が一番!朝食メニューコンクール参加者 288人⇒1,865人 (昨年度比657%増) 学校における食育推進講習会 参加者126人⇒154人 (昨年度比122.2%増)
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭を中心に食育に取り組もうとする学校での体制ができつつある。 ・栄養教諭が学校での食育に取り組むきっかけづくりになった。
(取組状況)	
<p>1 食育推進連絡協議会の開催</p> <p>各市町等教育委員会の食育及び学校給食担当者等と県立特別支援学校の栄養教諭及び学校栄養職員、教諭を対象に開催した。県教育委員会からの提案や情報提供等を行った。その後、各地域及び各学校の指導体制のより一層の充実を図るため、各地域、各校の取組状況について、情報交換を行うとともに、食に関する指導における課題や成果について協議した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 (県立特別支援学校対象) 参加者13人 平成25年 7月29日 (木) ・第2回 (県立特別支援学校対象) 参加者12人 平成25年12月 6日 (金) ・第3回 (県立特別支援学校対象) 参加者10人 平成26年 2月 6日 (木) ・第1回 (市町等教育委員会事務局対象) 参加者35人 平成25年 9月10日 (火) ・第2回 (市町等教育委員会事務局対象) 参加者29人 平成26年 2月 4日 (火) 	



(第1回 県立)



(第1回 市町等)



(第2回 市町等)

2 「学校における食育推進講習会」の開催（参加者154人）

栄養教諭や食育担当者を中心とした、学校教育活動全体で食育を進める指導体制の整備や、家庭・地域と連携した食育の推進を図るため、県内の小中学校及び特別支援学校教職員、市町等教育委員会食育担当者、PTAなどを対象とした講習会を開催した。

【実践発表】「平成24年度栄養教諭を中核とした食育推進事業 推進地域（鈴鹿市・尾鷲市）」
参加者満足度100%（アンケート提出者113名中）

【講演】「日本料理の魅力と秘密」関西福祉科学大学 客員教授 的場 輝佳
参加者満足度97.3%（アンケート提出者113名中）



(講演)



(実践発表)



3 「平成25年度 みえの地物が一番！朝食メニューコンクール」

（参加者1,895人、昨年度比657%増）

学校における食育の取組のきっかけづくりとして、栄養教諭や食育担当者等が、学級や学校全体で取組を推進した。



4 「学校における食育の推進一食で育む、元気なみえの子—実践編」の作成

基礎編をもとに食育の推進を進め、各学校の課題に沿ったテーマで、学校、家庭、地域が連携して取り組んでいる具体的な活動の実践を紹介した冊子を作製した。

今回初めて、県立特別支援学校の取組も集約し、一冊に掲載した。これにより、小学校、中学校、特別支援学校の各校種での取組を参考にできるようにできた。

また、各学校に複数冊配付することで、更なる食育の推進を図った。

4 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- ・推進地域での取組を、県内の栄養教諭や食育担当者等に周知することで、県全体の食育推進を図ることができる。
- ・食育担当者や栄養教諭が中心となって学校全体の食育を推進していくための方策やきっかけが大切である。

5 各都道府県教育委員会における事業成果の活用について

- ・推進地域での取組を、県内の栄養教諭や食育担当者等に周知することで、県全体の食育推進を図ることができる。

6 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・食に関する指導の全体計画の実質的な作成と活用をさらに推進していく必要がある。
- ・食育担当者や栄養教諭が中心となって学校全体の食育を推進していくための方策やきっかけが大切である。

